

なんでやねん

発行責任者 巻 忠



No. 9

1学期の中間考査を終えて

朝学習をていねいに取り組もう

今回は、先週に実施した1学期の中間考査の結果について振り返っておきたいと思
 います。なお、各観点の意味については、別号の「なんでやねん」で説明します。

「知識・理解」は合格点

正解率を観点別に見ると、「知識・理解」は61.3%、「資料活用技能」は44.2%、
 「思考・判断・表現」は27.9%です。「関心」の正解率は28.9%で、非常に残念な結
 果になりました。「関心」の問題として出題した地理的分野の問題は、「朝学習」の
 問題をそのまま出題したものです。地理的分野が苦手だとしても、「朝学習」をてい
 ねいにしておけば確実に得点できたと思われます。普段の学習を大切にして欲しいと
 思います(「朝学習」を社会科の学習に対する「関心」として評価します)。

「宿題」のしかた

「知識・理解」の問題は、主
 に「ワークブック」と「ゴール
 デンウィークの宿題」から出題
 しています。これらの問題は、
 授業に出てきた話題を「記憶し
 ておく」「理解しておく」レベ
 ルで解ける問題です。試験対策

1学期中間考査 観点別正解率



言えば、授業を受けた後で、真面目に宿題を通して自学自習しておけば『なんとか
 なる』と思います。全体的に言えば、「知識・理解」(44点配点)の正解率は、まずま
 ずの結果だと言って良いと思います。合計点数が低かった人は、せめて、この「知識
 ・理解」のところで、60%(26点)を超えるような努力が必要でしょう。宿題の「ワー
 クブック」の取り組んだ形跡を見ていると、「明らかに解答を見て写した」とわかる
 ものが圧倒的に多いこともわかっています。そして、そのような傾向の人のテスト結
 果は、あまり芳しくありません(宿題に全く誤りがないのに、テストになるとできな
 いなんて信用できません)。せめて、宿題に取り組むときに「なんで解く」ことを

してください。問題をていねいに読み、問題の意味を理解してから、「解答集」を見る。「解答集」の答えを写す前に、もう一度問題を読んでください。それから、解答を写す作業をします。その際、自分で答えを考えないで解答を写した場合は、赤字で書き入れるか、ボールペンで書き入れて、〇付けをしないことが大切です。それでもきちんとした提出物として扱います。ただ、「答えの丸写し」だと明確に分かるような「提出物」の評価は高くしませんので注意してください。

課題の残った「資料活用技能」と「思考・判断・表現」

「資料活用技能」と「思考・判断・表現」の問題に対応する学習方法は、授業中に先生の発問に対して、自分の頭で考える習慣をつけることが最優先でしょう。次に、その発問に対する、友達意見を注意深く聞いて、自分の意見との違いを考えることです。なぜなら、「資料活用技能」と「思考・判断・表現」の学習内容は、覚えることではなく「読み取ること」から始まるからです。数学の計算問題で、計算を自分でしない限り自分の計算力がつかないのと同じなのです。数学の計算問題は、問題がテスト問題や教科書に書かれていますが、社会科の「資料活用技能」と「思考・判断・表現」の問題(質問内容)は、書かれていません。与えられた「資料」からどんな「情報」を読み取るかは、その時そのときによって変化します。なぜなら、社会科で扱う「資料」は単独で存在しないからです。たいていの場合は、複数の「資料」があって、それらを「比較する」ことから「情報」を読み取ろうとします。単独の「資料」に見える場合は、自分の記憶にある別の「情報」と比較しなければ、与えられている「資料」から「情報」が読み取れないのです。そのために、授業では比較するための「情報」を発問で提供しています。ノートをまとめるときにも、そんなことを意識して取り組んでください。

そして、「資料活用技能」と「思考・判断・表現」の問題は、公立高校の入学試験の傾向を意識して作成しました。その意味では、これらの問題のレベルは公立高校の入試並みの難易度をもっていると考えてもらっていいと思います。今後も、定期テストではこのレベルの問題を出題する予定です。

なお、歴史的分野に関しては、「歴史的事実の詳細な内容の知識ではなく、歴史全体を大観することができるように」学習しなければならないと文部科学省の「学習指導要領」で定められています。そのこともあって、公立高校の入試では、特定の歴史的事象の詳細な知識ではなく、歴史全体(流れ)の理解を試すことが多くなります。